

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限〔当初、2027年11月29日まで〕（2000年11月30日設定）	
運用方針	わが国の株式に投資することにより信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要運用対象	ベビーフンド	いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド受益証券
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式
運用方法	<ul style="list-style-type: none">わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式の中から、企業の成長性が高く、かつ株価水準が割安であると判断される銘柄を中心に投資します。ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行い、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。	
主な組入制限	ベビーフンド	<ul style="list-style-type: none">株式への実質投資割合に制限を設けません。株式以外の資産への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	<ul style="list-style-type: none">株式への投資割合に制限を設けません。株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎年11月29日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準、市況動向、信託財産の中長期的な成長をはかるという当ファンドの目的等を総合的に勘案して、分配金額を決定します。原則として、配当等収益の水準を考慮して分配しますが、信託財産の成長を優先し、分配を抑制する場合があります。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）	

運用報告書（全体版）

いちよし
公開ベンチャー・ファンド



第24期（決算日：2024年11月29日）



信託期間を従来の2027年11月29日から無期限へ延長しました。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、お手持ちの「いちよし 公開ベンチャー・ファンド」は、去る11月29日に第24期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用 フリーダイヤル	0120-151034
	（受付時間：営業日の9:00～17:00、 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。	

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			(参 考 指 数) RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 分	み 金 騰 落 中 率	(配当込み) (%)	期 騰 落 中 率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
20期(2020年11月30日)	32,141	100	11.3	30,178.12	6.1	94.0	—	1,313
21期(2021年11月29日)	31,569	100	△ 1.5	30,610.69	1.4	95.1	—	1,203
22期(2022年11月29日)	26,802	100	△14.8	30,048.57	△ 1.8	91.3	—	1,011
23期(2023年11月29日)	24,016	100	△10.0	35,311.25	17.5	91.4	—	886
24期(2024年11月29日)	21,637	100	△ 9.5	40,303.73	14.1	97.0	—	756

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 参考指数は、2022年4月1日までは「JASDAQ INDEX」です。東京証券取引所の市場区分再編により、2022年4月4日以降は「RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）」に変更いたしました。

(※) 参考指数は、東京証券取引所の市場区分再編に伴い、2022年4月1日までは「JASDAQ INDEX」のリターンを利用し、2022年4月4日以降「RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）」のリターンを利用して指数化（2指数のリターンを繋いだ合成指数）しています。

RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額下位約15%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 2017年10月20日以降の当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) RUSSELL / NOMURA Small Cap インデックス (配当込み) (※)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2023年11月29日	円 24,016	% —	35,311.25	% —	% 91.4	% —
11月末	24,194	0.7	35,436.47	0.4	91.6	—
12月末	23,897	△ 0.5	35,777.46	1.3	97.5	—
2024年1月末	24,694	2.8	37,269.74	5.5	96.0	—
2月末	24,749	3.1	38,487.35	9.0	98.5	—
3月末	24,849	3.5	40,023.57	13.3	95.6	—
4月末	22,955	△ 4.4	39,558.11	12.0	96.3	—
5月末	23,495	△ 2.2	39,579.54	12.1	95.7	—
6月末	24,443	1.8	40,272.47	14.0	97.1	—
7月末	23,606	△ 1.7	40,629.25	15.1	96.5	—
8月末	22,482	△ 6.4	39,612.18	12.2	98.2	—
9月末	22,293	△ 7.2	39,833.95	12.8	95.3	—
10月末	21,559	△10.2	40,119.10	13.6	98.3	—
(期 末) 2024年11月29日	21,737	△ 9.5	40,303.73	14.1	97.0	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。
(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第24期：2023年11月30日～2024年11月29日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第24期首	24,016円
第24期末	21,637円
既払分配金	100円
騰落率	-9.5%
(分配金再投資ベース)	

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ9.5%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

円安・米ドル高が進行し国内企業の業績改善期待につながったことや、概ね堅調な企業決算などを背景に国内株式市況が上昇したことに加え、一部組入銘柄（武蔵精密工業、精工技研、ライフドリンク カンパニーなど）の株価上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

欧州や中東の政治情勢への懸念や日米の金融政策動向、日米政局への不透明感などを背景に国内株式市況が一時的に下落したことに加え、一部組入銘柄（Sun Asterisk、ジェイフロンティア、オープンワークなど）の株価下落が、基準価額の下落要因となりました。

銘柄要因

上昇要因となった主な銘柄・・・武蔵精密工業、精工技研、ライフドリンク カンパニー、S R Eホールディングス、霞ヶ関キャピタル

下落要因となった主な銘柄・・・Sun Asterisk、ジェイフロンティア、オープンワーク、日本シイエムケイ、マネジメントソリューションズ

第24期：2023年11月30日～2024年11月29日

投資環境について

国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

期間の初めから2024年3月にかけては、日銀が緩和的な金融環境を維持するとの見方などから円安・米ドル高が進行したことや、2023年10－12月期の国内企業決算が概ね堅調であったことなどを背景に上昇しました。

4月から7月にかけては、欧州や中東の政治情勢への懸念や米利下げ観測が後退したことなどがマイナスとなった一方、日銀の金融政策修正観測などを背景に金融株が上昇したことや2024年1－3月期の国内決算が概ね堅調であったことなどがプラスとなり上昇しました。

8月は、月初に米国の景気後退が懸念されて米国株式が下落したことや、日米金

融政策の方向性の違いから円高が大幅に進行したことなどが嫌気され、大きく下落しましたが、その後は米国の景気後退に関する過度な懸念が和らいだことや、国内の堅調な一部経済指標などを受けて上昇基調となりました。

9月から期間末にかけては、タカ派と見られていた石破首相が日銀の早期追加利上げに対し否定的な見解を示したことや、堅調な米雇用統計や米大統領選挙を巡り共和党候補のトランプ氏が優勢との見方などを受けた米利下げ観測の後退などから円安が進行したことなどがプラスとなった一方、日米政局への不透明感などがマイナスとなり、一進一退の展開となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

いちよし 公開ベンチャー・ファンド

いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド受益証券を通じて、わが国の株式に投資しています。株式の実質組入比率は高位を維持しました。

いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド

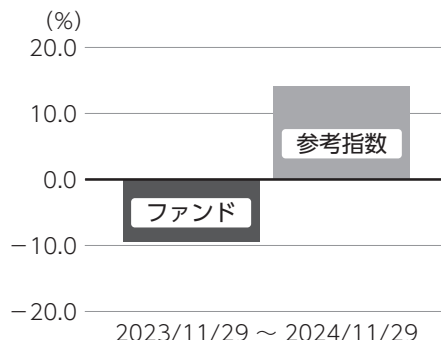
組入銘柄数は概ね62～85銘柄程度で推移させました。株価水準やファンダメンタルズの変化、新規投資候補銘柄との相対

比較等を勘案し、適宜入れ替えを行いました。期間の初め、期間末の比較では、輸送用機械器具の製造及び販売などを手掛ける武蔵精密工業や、光製品の製造及び販売などを手掛ける精工技研などを新規に組み入れました。一方、斎場の運営などを展開する広済堂ホールディングスや、車載関連の電子部品などを取り扱う萩原電気ホールディングスなどを全売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、信託財産の中長期的な成長をはかるといふ当ファンドの目的等を総合的に勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第24期 2023年11月30日～2024年11月29日
当期分配金（対基準価額比率）	100 (0.460%)
当期の収益	—
当期の収益以外	100
翌期繰越分配対象額	19,870

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ いちよし 公開ベンチャー・ファンド

今後もいちよし 公開ベンチャー・マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

▶ いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド

上場企業のうち、ファンダメンタルズ（財務状況の基礎的条件）が良好で高い成長力を有し、近い将来において飛躍期を迎える可能性が高いと判断され、次のステージでのビジネスモデル、ビジネスプランが明確であると判断される企業を「公開ベンチャー」と位置付け、これらの企業を中心に投資を行います。運用にあたっては中小型株に特化した、いちよ

しアセットマネジメント株式会社の運用アドバイスを受けた、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行います。

中小型成長株を取り巻く環境を注意深く見極めながら、個別企業への調査等により、株価の割安感が強まっていると判断される優良な中小型成長株への注目度を高めていくとともに、ファンダメンタルズ以上に株価上昇がみられる銘柄及び短期間で株価が大幅に上昇したと判断される銘柄については、利益確定の売却や組入比率の調整などを行い、比較的株価が割安水準にあって成長期待の大きい中小型成長銘柄への入れ替えを継続することでパフォーマンスの向上に努めていく方針です。

2023年11月30日～2024年11月29日

> 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	432	1.870	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(229)	(0.990)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(178)	(0.770)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(25)	(0.110)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	59	0.254	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(59)	(0.254)	
(c) その他費用	1	0.004	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	492	2.128	

期中の平均基準価額は、23,121円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

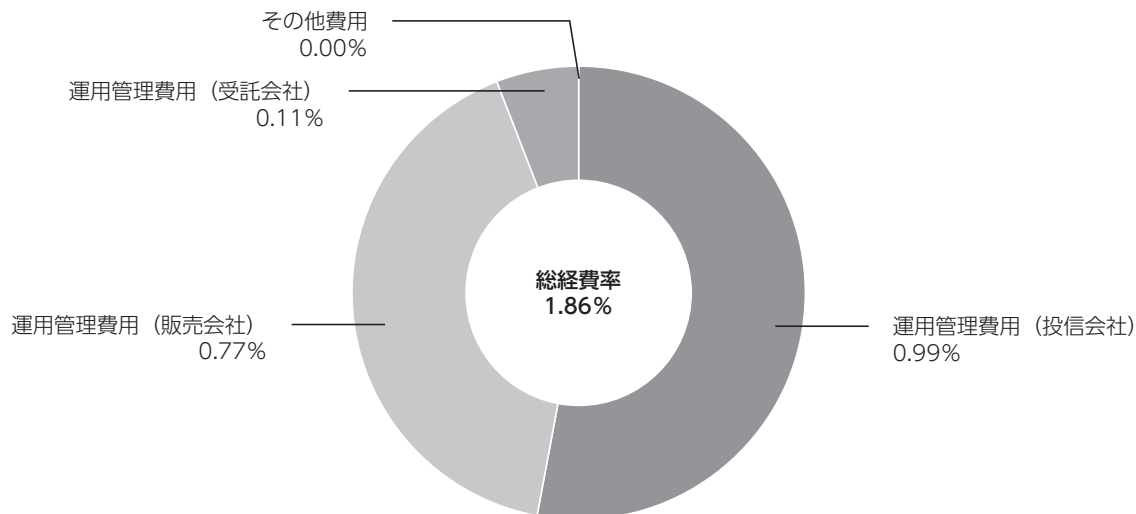
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.86%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年11月30日～2024年11月29日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド	千口 2,752	千円 2,530	千口 67,110	千円 65,940

○株式売買比率

(2023年11月30日～2024年11月29日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	47,811,849千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	12,123,087千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	3.94

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2023年11月30日～2024年11月29日)

利害関係人との取引状況

<いちよし 公開ベンチャー・ファンド>

該当事項はございません。

<いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 24,359	百万円 2,327	% 9.6	百万円 23,452	百万円 1,977	% 8.4

平均保有割合 6.6%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	2,072千円
うち利害関係人への支払額 (B)	215千円
(B) / (A)	10.4%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細 (2024年11月29日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド	871,680	807,321	752,827

○投資信託財産の構成 (2024年11月29日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド	752,827	98.1
コール・ローン等、その他	14,640	1.9
投資信託財産総額	767,467	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年11月29日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	767,467,002
コール・ローン等	11,129,206
いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド(評価額)	752,827,731
未収入金	3,510,000
未収利息	65
(B) 負債	10,915,087
未払収益分配金	3,496,581
未払信託報酬	7,401,159
その他未払費用	17,347
(C) 純資産総額(A－B)	756,551,915
元本	349,658,111
次期繰越損益金	406,893,804
(D) 受益権総口数	349,658,111口
1万口当たり基準価額(C／D)	21,637円

<注記事項>

- ①期首元本額 369,001,138円
 期中追加設定元本額 275,201円
 期中一部解約元本額 19,618,228円
 また、1口当たり純資産額は、期末2.1637円です。

②分配金の計算過程

項 目	2023年11月30日～ 2024年11月29日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	102,444,776円
分配準備積立金額	595,838,716円
当ファンドの分配対象収益額	698,283,492円
1万口当たり収益分配対象額	19,970円
1万口当たり分配金額	100円
収益分配金金額	3,496,581円

○損益の状況 (2023年11月30日～2024年11月29日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	7,976
受取利息	8,120
支払利息	△ 144
(B) 有価証券売買損益	△ 64,315,241
売買益	1,669,863
売買損	△ 65,985,104
(C) 信託報酬等	△ 15,322,479
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 79,629,744
(E) 前期繰越損益金	330,284,942
(F) 追加信託差損益金	159,735,187
(配当等相当額)	(102,444,670)
(売買損益相当額)	(57,290,517)
(G) 計(D＋E＋F)	410,390,385
(H) 収益分配金	△ 3,496,581
次期繰越損益金(G＋H)	406,893,804
追加信託差損益金	159,735,187
(配当等相当額)	(102,444,776)
(売買損益相当額)	(57,290,411)
分配準備積立金	592,342,135
繰越損益金	△345,183,518

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	100円
-----------------	------

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

*三菱ＵＦＪアセットマネジメントでは本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

【お 知 ら せ】

- ①新 Ｎ Ｉ Ｓ Ａ（成長投資枠）の要件対応のため、信託期間を延長（無期限化）し、デリバティブ取引にかかる投資制限について記載整備を行い、信託約款に所要の変更を行いました。
(2023年12月15日)
- ②東京証券取引所の取引時間の延伸に伴い、申込締切時間の変更を行いました。詳細は、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）から当該ファンドページの目論見書をご覧ください。
(2024年11月5日)

いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド

《第8期》決算日2024年11月29日

[計算期間：2023年11月30日～2024年11月29日]

「いちよし 公開ベンチャー・マザーファンド」は、11月29日に第8期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第8期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として中長期的な値上がり益の獲得をめざして運用を行います。
主 要 運 用 対 象	わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式
主 な 組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資割合に制限を設けません。 ・株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		(参 考 指 数) RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス (配当込み)(%)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
4期(2020年11月30日)	12,680	14.4	30,178.12	6.1	94.1	—	15,048
5期(2021年11月29日)	12,723	0.3	30,610.69	1.4	95.6	—	10,225
6期(2022年11月29日)	11,038	△13.2	30,048.57	△1.8	91.7	—	9,749
7期(2023年11月29日)	10,116	△8.4	35,311.25	17.5	91.9	—	12,387
8期(2024年11月29日)	9,325	△7.8	40,303.73	14.1	97.5	—	11,389

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 参考指数は、2022年4月1日までは「JASDAQ INDEX」です。東京証券取引所の市場区分再編により、2022年4月4日以降は「RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）」に変更いたしました。

(※) 参考指数は、東京証券取引所の市場区分再編に伴い、2022年4月1日までは「JASDAQ INDEX」のリターンを利用し、2022年4月4日以降「RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）」のリターンを利用して指数化（2指数のリターンを繋いだ合成指数）しています。

RUSSELL/NOMURA Small Capインデックス（配当込み）は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Small Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額下位約15%の銘柄により構成されています。

RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) RUSSELL / NOMURA Small Cap インデックス (配当込み) (※)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2023年11月29日	円 10,116	% —	35,311.25	% —	% 91.9	% —
11月末	10,192	0.8	35,436.47	0.4	92.0	—
12月末	10,083	△0.3	35,777.46	1.3	98.0	—
2024年1月末	10,438	3.2	37,269.74	5.5	96.5	—
2月末	10,477	3.6	38,487.35	9.0	99.0	—
3月末	10,535	4.1	40,023.57	13.3	96.0	—
4月末	9,744	△3.7	39,558.11	12.0	96.8	—
5月末	9,990	△1.2	39,579.54	12.1	96.1	—
6月末	10,410	2.9	40,272.47	14.0	97.6	—
7月末	10,069	△0.5	40,629.25	15.1	97.0	—
8月末	9,601	△5.1	39,612.18	12.2	98.7	—
9月末	9,535	△5.7	39,833.95	12.8	95.8	—
10月末	9,234	△8.7	40,119.10	13.6	98.8	—
(期 末) 2024年11月29日	9,325	△7.8	40,303.73	14.1	97.5	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

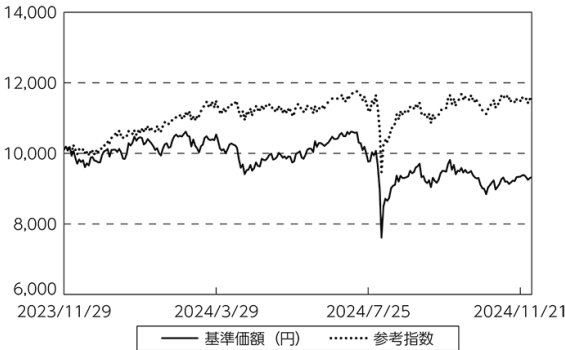
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ7.8%の下落となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

円安・米ドル高が進行し国内企業の業績改善期待につながったことや、概ね堅調な企業決算などを背景に国内株式市況が上昇したことに加え、一部組入銘柄（武蔵精密工業、精工技研、ライフドリンク カンパニーなど）の株価上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

(下落要因)

欧州や中東の政治情勢への懸念や日米の金融政策動向、日米政局への不透明感などを背景に国内株式市況が一時的に下落したことに加え、一部組入銘柄（Sun Asterisk、ジェイフロンティア、オープンワークなど）の株価下落が、基準価額の下落要因となりました。

(銘柄要因)

上昇要因となった主な銘柄…武蔵精密工業、精工技研、ライフドリンク カンパニー、SREホールディングス、霞ヶ関キャピタル

下落要因となった主な銘柄…Sun Asterisk、ジェイフロンティア、オープンワーク、日本シイエムケイ、マネジメントソリューションズ

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期間の初めから2024年3月にかけては、日銀が緩和的な金融環境を維持するとの見方などから円安・米ドル高が進行したことや、2023年10-12月期の国内企業決算が概ね堅調であったことなどを背景に上昇しました。

- ・4月から7月にかけては、欧州や中東の政治情勢への懸念や米利下げ観測が後退したことなどがマイナスとなった一方、日銀の金融政策修正観測などを背景に金融株が上昇したことや2024年1-3月期の国内決算が概ね堅調であったことなどがプラスとなり上昇しました。
- ・8月は、月初に米国の景気後退が懸念されて米国株式が下落したことや、日米金融政策の方向性の違いから円高が大幅に進行したことなどが嫌気され、大きく下落しましたが、その後は米国の景気後退に関する過度な懸念が和らいだことや、国内の堅調な一部経済指標などを受けて上昇基調となりました。
- ・9月から期間末にかけては、タカ派と見られていた石破首相が日銀の早期追加利上げに対し否定的な見解を示したことや、堅調な米雇用統計や米大統領選挙を巡り共和党候補のトランプ氏が優勢との見方などを受けた米利下げ観測の後退などから円安が進行したことなどがプラスとなった一方、日米政局への不透明感などがマイナスとなり、一進一退の展開となりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

組入銘柄数は概ね62～85銘柄程度で推移させました。株価水準やファンダメンタルズの変化、新規投資候補銘柄との相対比較等を勘案し、適宜入れ替えを行いました。期間の初め、期間末の比較では、輸送用機械器具の製造及び販売などを手掛ける武蔵精密工業や、光製品の製造及び販売などを手掛ける精工技研などを新規に組み入れました。一方、斎場の運営などを展開する広済堂ホールディングスや、車載関連の電子部品などを取り扱う萩原電気ホールディングスなどを全売却しました。

○今後の運用方針

- ・上場企業のうち、ファンダメンタルズ（財務状況の基礎的条件）が良好で高い成長力を有し、近い将来において飛躍期を迎える可能性が高いと判断され、次のステージでのビジネスモデル、ビジネスプランが明確であると判断される企業を「公開ベンチャー」と位置付け、これらの企業を中心に投資を行います。運用にあたっては中小型株に特化した、いちよしアセットマネジメント株式会社の運用アドバイスを受けた、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行います。

- ・中小型成長株を取り巻く環境を注意深く見極めながら、個別企業への調査等により、株価の割安感が強まっていると判断される優良な中小型成長株への注目度を高めていくとともに、ファンダメンタルズ以上に株価上昇がみられる銘柄及び短期間で株価が大幅に上昇したと判断される銘柄については、利益確定の売却や組入比率の調整などを行い、比較的株価が割安水準にあつて成長期待の大きい中小型成長銘柄への入れ替えを継続することでパフォーマンスの向上に努めていく方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2023年11月30日～2024年11月29日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 25 (25)	% 0.255 (0.255)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	25	0.255	
期中の平均基準価額は、9,829円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2023年11月30日～2024年11月29日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 13,560 (509)	千円 24,359,502 ()	千株 14,955	千円 23,452,346

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2023年11月30日～2024年11月29日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	47,811,849千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	12,123,087千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	3.94

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2023年11月30日～2024年11月29日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況 D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	24,359	2,327	9.6	23,452	1,977	8.4

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	31,498千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,314千円
(B) / (A)	10.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2024年11月29日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (2.3%)			
不動産トラ	—	54	109,512
東鉄工業	—	46.2	148,302
食料品 (4.7%)			
ライフドリンク カンパニー	50	100.9	251,442
やまみ	—	30.3	127,714
ヨシムラ・フード・ホールディングス	150	100	136,400
ジェイフロンティア	55	—	—
サンクゼール	42	—	—
化学 (11.6%)			
トクヤマ	—	57	151,648
関東電化工業	—	195	213,525
日本カーバイド工業	125	—	—
日本化学工業	—	78	185,250
伊勢化学工業	20	—	—
保土谷化学工業	—	37.1	140,423
KHネオケム	—	71	144,414
大倉工業	70	—	—
カーリット	194	—	—
第一工業製薬	—	40	153,200
W a q o o	90	—	—
東洋合成工業	—	21.6	126,144
J C U	—	43.3	175,365
ゴム製品 (—%)			
フコク	90	—	—
ガラス・土石製品 (2.1%)			
オハラ	—	98	118,776
アジアパイルホールディングス	203	140	113,960
東洋炭素	35	—	—
非鉄金属 (—%)			
SWCC	70.8	—	—
金属製品 (—%)			
東京製綱	94	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
機械 (13.3%)			
旭ダイヤモンド工業	200	190	152,380
N I T T O K U	—	95.7	175,322
A I メカテック	50	60.5	161,958
エヌ・ピー・シー	200	—	—
ホソカワミクロン	50	—	—
ユニオンツール	21.5	33.5	177,885
日精エー・エス・ピー機械	—	31.8	163,770
T O W A	—	52.5	83,107
北川精機	330	—	—
帝国電機製作所	62	—	—
テセック	67.1	—	—
タカトリ	25	—	—
西島製作所	100	112.2	261,987
鈴茂器工	—	98.9	169,811
C K D	—	53.3	133,036
キッツ	150	—	—
電気機器 (10.6%)			
湖北工業	15	90	306,900
テラプローブ	50	—	—
ミマキエンジニアリング	107	—	—
アイホン	60	—	—
s a n t e c H o l d i n g s	—	20	117,600
メイコー	60	—	—
フォスター電機	129.1	196.1	283,952
精工技研	—	65	310,700
日本電子材料	—	75	153,675
エスベック	102	—	—
遠藤照明	134	—	—
日本シイエムケイ	225	—	—
輸送用機器 (4.8%)			
武蔵精密工業	—	102.5	338,762
ジャムコ	—	141.1	192,742

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
精密機器 (2.8%)			
長野計器	85	65	154,115
A&Dホロンホールディングス	140	83.5	156,896
その他製品 (3.9%)			
前田工繊	—	124.6	225,027
広済堂ホールディングス	600	—	—
イトーキ	—	130.1	206,078
電気・ガス業 (2.0%)			
グリムス	—	84.5	223,249
情報・通信業 (21.8%)			
I Gポート	38.7	90	241,560
アイル	—	68.5	223,652
マークライنز	—	61.4	148,465
デジタル・インフォメーション・テクノロジー	—	69.8	150,070
エコモット	195	—	—
シェアリングテクノロジー	230	200	184,400
ティアンドエスグループ	95	109.7	207,881
プラスアルファ・コンサルティング	—	94	154,442
ENECHANGE	120	—	—
Appier Group	103.1	—	—
コアコンセプト・テクノロジー	49.9	—	—
Finatextホールディングス	190	140	131,600
ANYCOLOR	80	—	—
unerry	42	—	—
日本ビジネスシステムズ	—	83	80,261
eWeLL	—	97	189,053
pluszero	—	50.8	123,748
スマートドライブ	54.7	—	—
jig.jp	300	—	—
カバー	80	—	—
Arent	45	30	155,100
グリッド	35	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
エコナビスタ	70	—	—
ビジョン	—	170.6	245,493
J B C Cホールディングス	40.2	40	187,800
卸売業 (2.5%)			
円谷フィールズホールディングス	—	82.6	177,094
横浜冷凍	—	124.3	98,818
萩原電気ホールディングス	65	—	—
シークス	100	—	—
小売業 (3.8%)			
トレジャー・ファクトリー	—	83.5	108,216
ネクステージ	—	133.7	193,196
Japan Eyewear Holdin	—	43.3	120,893
ライフコーポレーション	60	—	—
その他金融業 (2.3%)			
プレミアグループ	—	97.3	254,828
不動産業 (2.5%)			
地主	—	131.4	280,933
ジェイ・エス・ビー	64	—	—
サービス業 (9.0%)			
アストロスケールホールディングス	—	105.4	91,908
ヒビノ	—	40	114,440
シグマクシス・ホールディングス	—	342.6	308,682
ミダックホールディングス	—	180.7	303,214
Macbee Planet	7	—	—
ステムセル研究所	62.6	—	—
ビーウィズ	85	—	—
サンウェルズ	46	—	—
ラストワンマイル	55	—	—
INTLOOP	40	31.6	180,752
合 計	株 数 ・ 金 額	6,604	5,719
	銘柄数<比率>	64	62

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2024年11月29日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 11, 101, 541	% 97. 3
コール・ローン等、その他	309, 359	2. 7
投資信託財産総額	11, 410, 900	100. 0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年11月29日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	11,410,900,480
コール・ローン等	233,247,115
株式(評価額)	11,101,541,500
未収配当金	76,110,500
未収利息	1,365
(B) 負債	21,895,172
未払金	18,385,172
未払解約金	3,510,000
(C) 純資産総額(A－B)	11,389,005,308
元本	12,213,422,255
次期繰越損益金	△ 824,416,947
(D) 受益権総口数	12,213,422,255口
1万口当たり基準価額(C／D)	9,325円

<注記事項>

- ①期首元本額 12,245,549,372円
 期中追加設定元本額 1,211,129,912円
 期中一部解約元本額 1,243,257,029円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9325円です。

②期末における元本の内訳（当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額）

いちよし ジャパン・ベンチャー・ファンド	11,406,100,291円
いちよし 公開ベンチャー・ファンド	807,321,964円
合計	12,213,422,255円

- ③純資産総額が元本額を下回っており、その差額は824,416,947円です。

○損益の状況 (2023年11月30日～2024年11月29日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	197,817,954
受取配当金	197,492,800
受取利息	343,986
その他収益金	726
支払利息	△ 19,558
(B) 有価証券売買損益	△1,190,275,927
売買益	2,227,809,849
売買損	△3,418,085,776
(C) 当期損益金(A＋B)	△ 992,457,973
(D) 前期繰越損益金	141,663,909
(E) 追加信託差損益金	△ 12,389,912
(F) 解約差損益金	38,767,029
(G) 計(C＋D＋E＋F)	△ 824,416,947
次期繰越損益金(G)	△ 824,416,947

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

[お 知 ら せ]

新N I S A（成長投資枠）の要件対応のため、デリバティブ取引にかかる投資制限について記載整備を行い、信託約款に所要の変更を行いました。

(2023年12月15日)